

## 序

当教育研究所では、平成6年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿を募集しましたところ、論説の部に6編、実践記録の部に6編の応募をいただきました。

論説の部では、特殊教育に関するアンケートをもとに特殊教育の現状と展望について、また急激な社会の変化に対応する中学校進路指導の在り方についての提案を、更に本市の四人の英語指導助手がそれぞれの立場から日本語の学び方について、本市の英語教育にかかわる感想、積極的な国際化と教育の関係などについて述べております。関係者には是非ご一読いただき、さらに議論を深めていただけたら幸いです。

実践記録の部につきましては、学校教育関係者から、算数科において子供がめあてをもって意欲的に取り組む学習指導の在り方、特に教師自身が教材の生成過程を理解する教材研究に努められた実践、同じく算数科において児童のつまずきを捉え、学習特性を踏まえた学習指導の在り方についての実践、社会科における現地調査を取り入れ、子供がめあてをもって取り組む社会科学習の在り方についての実践、数学科における生徒が主体的に取り組める課題学習の在り方についての実践、社会科における主体的な学習を促すための課題学習の在り方についての実践、近年増加の傾向にある登校拒否児童に対する校内の組織的取り組みの実践など、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの学校教育関係者の方々から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきましたが、これらの論文は、読者のみなさんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も、教育論文第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げるとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成7年3月

足利市立教育研究所長

大塚晴雄